



市毛まさひろ 042-539-1775



池田 公三 042-530-0705

福生市議団ニュース

生活相談

市毛まさひろ 090-3223-3923 池田 公三 090-7946-5137

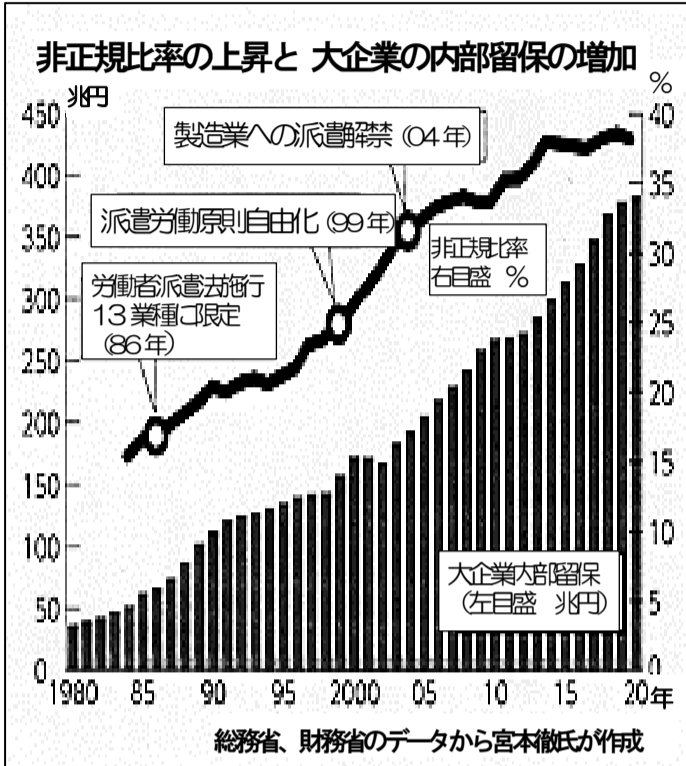
法律相談

毎月第2・第4火曜日 要予約 市毛・池田まで



冷たく弱い「新自由主義」経済から

やさしく強い循環型経済へ転換を



新型コロナウイルス感染症はついに第6波に突入し、国民の暮らしは厳しさを増しています。一見すると自然災害に見えますが、実は小泉政権以来の新自由主義路線がもたらした政治災害の側面が大きいのです。日本共産党の田村参院議員がコロナ以前から国会で指摘してまいりました。目先のコスト削減・効率だけを優先し、感染症対策を担う保健所や公立病院の削減、将来を見据えた科学・医療の基礎研究予算の削減などは、いざという時に対応できなくなるからやっつけてはいけない。今回の事態は予見されていたのです。感染拡大で保健所や病院がパンクし、自宅に放置される患者。国産のワクチンを開発できず外国に頼り、ワクチン接種が大きく遅れたのも、目先の企業利益を優先する新自由主義路線の結果です。

正規雇用を減らし、非正規雇用を増やすコスト削減で目先の利潤確保に走る日本が、結局、国民の購買力を低下させ、世界で最も経済成長率の低い国になったのです。国民がまんまと自己責任を押し付ける冷たい経済は結局、弱い経済になるのです。「新しい資本主義」などと言っていた岸田首相ですが、結局、新自由主義の焼き直しに過ぎないことが日々明らかになっています。政権交代しかありません。賃金、年金、社会福祉を充実させる政治こそが、国民を豊かにし、国内購買力を復活させ、輸出に過度に依存しない国内循環型の「やさしく強い」日本経済を実現できるのです。

福生市政も新自由主義路線から脱却を

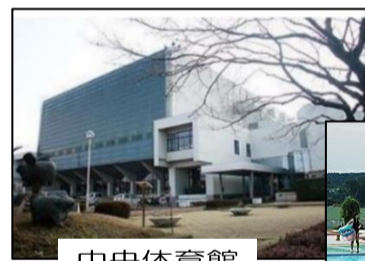
えーっ、文化・芸術・スポーツの本格的専門施設がなくなっちゃうの？



福生駅西口に建設予定の複合施設のホールでは規模も、設備も劣るから、「発表・鑑賞・観戦の場を失う市民・団体は困るだろうね。」



市民会館



中央体育館



市民プール

さて、福生市政はどうでしょうか。実は国政と似ています。加藤市長は、市政運営にも民間と同じ「効率化」「コスト意識」を求め、職員定数削減、正規雇用を非正規雇用置き換えることを行ってきました。その結果、福生市では非正規職員が37%にも達しています。保育園や給食センターの民営化もそうした流れの一環です。結果、社会全体の低賃金化を促進しています。

福生市はさらに、小学校や市民会館、中央体育館など、公共施設の20%削減を計画しています。日本共産党派は、財源の見直しを示したうえで、学校教育や市民サービスの大きな低下につながる公共施設削減はすべきでないとして主張しています。

市民サービスの面では、「受益者負担」という理由で手数料や使用料の値上げや新規導入を行っています。公共サービスは市民なら誰でも無料で受けられるのが原則のはずです。「受益者」には当たりません。こうして市民サービスを削る一方で、財政調整基金という貯金を過度に貯めこんでいることも問題です。

福生中央図書館の大規模改修・一時休館に伴う

14人の非正規職員全員の雇い止めはやめて！



中央図書館

この問題については、裏面のしんぶん赤旗の記事もご覧ください。

コスト削減が最優先の新自由主義的考え方は、非正規職員を簡単に切り捨て、正規職員には労働強化、市民には「受益者負担」の名で新たな負担増やサービス低下を押し付けることとなります。

福生市の公共施設20%削減計画もこの考え方です。中央図書館については存続させる計画ですが、長寿命化やバリアフリー化などのための大規模改修を行うため、4月から1年半の休館に入ります。問題は、正規職員以外の非正規職員14人全員を再任用しない(雇い止め)としていることです。

休館中、正規職員だけで行うさくら会館での予約貸し出しだけの業務も夜間は中止というサービス低下。昼間働いている市民からの苦情にも応えようとしていません。

利用客が増えると思われる3つの分館への増員、学校図書室への司書全校配置をという共産党会派の提案にも拒否回答です。

公務労働に携わる非正規職員の立場は、一昨年、国によって導入された会計年度任用職員制度への移行によって、任用期間が1年、再雇用でも4回までと制限されるなど、民間の非正規労働者よりも一層不安定なものにされています。

安定した市民サービスのためにも、雇用の安定が不可欠だと考えます。